

部門費計算 第4問 問題

次の資料にもとづいて、下記の問いに答えなさい。

(配賦基準資料)

	合 計	切 削 部	組 立 部	動 力 部	修 繕 部	工場事務部
従 業 員 数	250 人	70 人	105 人	28 人	37 人	10 人
修 繕 時 間	77 時間	36 時間	14 時間	10 時間	8 時間	9 時間
機械運転時間	4,050 時間	1,638 時間	1,092 時間	1,040 時間	280 時間	—

問1 直接配賦法によって部門費配賦表を完成させなさい。

問2 問1の部門費配賦表にもとづいて、補助部門費の配賦に必要な仕訳を示しなさい。ただし、使用する勘定科目は、切削部、組立部、動力部、修繕部および工場事務部とする。

問1

部 門 費 配 賦 表

(単位：円)

費 目	合 計	製 造 部 門		補 助 部 門		
		切 削 部	組 立 部	動 力 部	修 繕 部	工場事務部
第1次集計後 部門費	380,000	107,044	123,846	87,360	49,500	12,250
工場事務部門費						
修繕部門費						
動力部門費						
製造部門費						

問2

借方科目	金額	貸方科目	金額

部門費計算 第4問 模範解答

問1

部門費配賦表

(単位：円)

費目	合計	製造部門		補助部門		
		切削部	組立部	動力部	修繕部	工場事務部
第1次集計後部門費	380,000	107,044	123,846	87,360	49,500	12,250
工場事務部門費	12,250	4,900	7,350			
修繕部門費	49,500	35,640	13,860			
動力部門費	87,360	52,416	34,944			
製造部門費	380,000	200,000	180,000			

問2

借方科目	金額	貸方科目	金額
切削部	92,956	動力部	87,360
組立部	56,154	修繕部	49,500
		工場事務部	12,250

【解説】

問1 直接配賦法により、第1次集計後の補助部門費を製造部門にのみ配賦する。

工場事務部；配賦基準は従業員数

$$\text{切削部} ; \frac{12,250\text{円}}{70\text{人}+105\text{人}} \times 70\text{人} = 4,900\text{円} \quad \text{組立部} ; \frac{12,250\text{円}}{70\text{人}+105\text{人}} \times 105\text{人} = 7,350\text{円}$$

修繕部；配賦基準は修繕時間

$$\text{切削部} ; \frac{49,500\text{円}}{36\text{h}+14\text{h}} \times 36\text{h} = 35,640\text{円} \quad \text{組立部} ; \frac{49,500\text{円}}{36\text{h}+14\text{h}} \times 14\text{h} = 13,860\text{円}$$

動力部；配賦基準は機械運転時間

$$\text{切削部} ; \frac{87,360\text{円}}{1,638\text{h}+1,092\text{h}} \times 1,638\text{h} = 52,416\text{円} \quad \text{組立部} ; \frac{87,360\text{円}}{1,638\text{h}+1,092\text{h}} \times 1,092\text{h} = 34,944\text{円}$$

問2 第2次集計は、補助部門の貸方から製造部門の借方へ集計する手続きなので、仕訳をすると借方が製造部門、貸方が補助部門となる。借方の製造部門費は、問1で求めた補助部門からの配賦額である。

$$\text{切削部} ; 4,900\text{円} + 35,640\text{円} + 52,416\text{円} = 92,956\text{円}$$

$$\text{組立部} ; 7,350\text{円} + 13,860\text{円} + 34,944\text{円} = 56,154\text{円}$$